

アオサギ



井上にて

(撮影：桐原佳介)

子供たちと川べりを歩いていたら、岸辺にたたずむアオサギを1羽見つけました。私は「あ、アオサギがいるね。」と言いました。すると一緒にいた園児の一人が「青くないが、灰色だわ。」と不思議そうに言いました。なかなか鋭いっつこみです。アオサギは、青くないのになぜアオサギと呼ばれるのでしょうか。

実は、漢字で「蒼鷺」と書きます。蒼は、「木々が鬱蒼と茂る」の蒼の字です。とても幅の広い色を表現している文字で、草や木の深い緑や海の濃い青色、頭に白髪が混じっている様などを表しています。また「顔面蒼白になる」という表現でも血の気のひいた顔色をさしています。このような色のイメージからアオサギと名付けられたと考えられています。英語では素直に、グレイ・ヘロン（灰色の鷺）と呼ばれています。

今の季節、サギたちは結婚シーズンです。子育てを始めたアオサギたちは、寒い季節とはひと味違った美しい姿になります。嘴と足に注目してみましよう。まるでペン

キで塗ったかのように、見事なピンク色に染まるのです。この灰色と桃色の対比が見られるのも早春だけです。初夏には、嘴も足もくすんだ黄色になります。

アオサギは大食漢で、川魚やカエルなどを丸呑みにします。そのため養魚場や池を持っている方には目の仇にされていることもあります。ご近所でこんな話がありました。コイを飼っているYさんのお庭の池にアオサギがやってきて、鳥よけのネットに絡んでしまいました。Yさんは一人ではどうしようもないので、駐在所に「サギが来て困っている」と連絡しました。おまわりさんは、大急ぎでやって来ました。そして、池のサギを見て仰天したそうです。「人間の詐欺が来ているのかと思った！」とのことでした。振り込め詐欺なども困ったものですが、こういうサギも困ったものです。そのアオサギは、段ボールに入られて、しかるべきところに無事保護されたそうです。ちよつと変わったサギ事件でした。

自然観察指導員 桐原真希